



# 感染症 ひとくち情報

麻しん・風しんの予防接種(MR ワクチン)で免疫をつけましょう



2016年11月17日

東京都健康安全研究センター

## ◆ 麻しんとは

麻しんは、麻しんウイルスによって引き起こされる感染症で、「はしか」とも呼ばれています。

感染後10～12日たってから、38度程度の発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が2～4日続き、その後39度以上の高熱と共に発しんが出現します。

麻しんの合併症は、肺炎や脳炎、中耳炎、クループ（のどの喉頭という部分の炎症で、ゼイゼイしたり呼吸困難になったりします）、心筋炎などがあり、重篤な場合、死亡する可能性があります。

国内から排除されていますが、感染した渡航者からの感染がおきることがあります。

麻しん 東京都

検索



## ◆ 風しんとは

風しんは、風しんウイルスによって引き起こされる感染症で、「三日ばしか」とも呼ばれています。

感染後2～3週間（平均16～18日）たってから、発熱、発しん、リンパ節の腫れが出現します。発熱は患者全体の約半分にみられる程度です。

風しんに対する免疫をもたず妊娠中（特に妊娠初期）に感染した場合、胎児が風しんウイルスに感染し、白内障、先天性心疾患、難聴などをもった赤ちゃん（先天性風しん症候群）が生まれることがあります。

都内でも患者の報告があり、感染の広がりについては、今後十分な注意が必要です。

風しん 東京都

検索



## ◆ 予防について

麻しん・風しんは、感染力がきわめて強く、空気感染もするので、手洗い、マスクのみでは十分な予防ができません。特効薬がなく重症化や先天性風しん症候群もあるため、あらかじめ予防接種を受けることが大切です。

定期予防接種として、麻しん・風しん混合ワクチン（MRワクチン）を接種します。標準的な接種期間は以下のとおりです。まだ、予防接種を受けられていない方は、早めに受けてください。

- 1期：1歳以上2歳未満
- 2期：5歳から7歳未満で小学校就学前1年間

なお、定期予防接種の期間にない方で、「かかったことがなく、ワクチンを1回も受けたことのない人」は、かかりつけ医師に相談してください。



流行時や集団感染があった時などは、ワクチンの在庫切れで接種しづらくなることもあるため、流行っていない時にあらかじめ接種しておきましょう。

## ◆ 医療機関で受診の際には

麻しん・風しん患者と接触し、症状（発熱や咳、鼻みず、涙がたくさん出る、発しんなど）を呈するなど、感染が疑われる場合は、事前に医療機関にそのことを電話連絡してから受診してください。